『言語学論叢』　総目次

各号の発行年　1(1982)2(1983)3(1984)4(1985)5(1986)6・7(1988)8(1989)

凡　例

①掲載順は著者の五十音順。

②各項目の見方は以下の通り。

山岡政紀　←著者名

「場」の概念 ---------- 6・7：41

↑ 論文名　　↑ 号数　↑ 頁数

③副題の形式を統一（例；――Zが形容詞の場合―― ⇒ ――Zが形容詞の場合）

④著者名を統一した。

アントニオ・ルイズ・ティノコ

言語記号は「概念」を表わしているのか ---------- 4：30

日本語の「φ」という限定辞 ---------- 5：31

「デハナク」の論理について ---------- 6・7：13

アンドレイ・ベケシュ

On a set-theoretical model for cohesive and thematic structures of a text ---------- 1：63

有縁性のhierarchyと構造のhierarchy ---------- 4：61

李　徳奉

認知機能から見た比喩の意味構造 ---------- 8：1

池田　潤

《Wow-Conversive現象》理解のための作業仮説

――談話文法の視点から ---------- 5：44

大橋康子
中期朝鮮語の母音調和 ---------- 2：1

奥坊光子
英語の他動詞補文構造の文生成について
——ＧＢ理論の心理的実在性をめぐって ---------- 4：2

小沼喜好
時制論理学を用いた時制の分析方法 ---------- 1：17

川崎晶子
夫婦の会話
——言語運用の意識と実際 ---------- 2：77

小林正佳
言語運用における個人差と性格との関係について
——理論的枠組みと研究概観 ---------- 4：15

サワリー・ワッタナチョンコン
日本語の条件表現——その意味・用法 ---------- 3：46

周　馥卿
日本語の条件表現 ---------- 2：28

白川博之
「統括成分」をどう指定するか ---------- 2：14
連体修飾節の状況提示機能 ---------- 5：1

寺尾　康

混合タイプの言い誤りについて ---------- 3：15

語代用の言い誤りと心的語彙部門の構造について ---------- 4：42

橋本邦彦

修辞疑問文 ---------- 1：33

畠山勝彦

“非テキスト”という概念とテキスト性の欠如について ---------- 3：63

馬場俊臣

統括文の位置と文間の関係の強さ ---------- 6・7：25

林　四郎

「言語学論叢」発刊に当って ---------- 1：1

堀越喜晴

手話の言語学的研究について

——現状、課題および一提案 ---------- 3：32

ポリー・ザトラウスキー

プラグマティックスから見た日本語の動詞のアスペクト

——特に否定形の場合において ---------- 2：48

前原　寛

＜書評＞ Introduction to Text Linguistics

by Robert de Beangrande & Wolfgang Dressler --------- 1：80

図式理論と「モデル」の概念の導入による文章の理解過程について -- 3：1

宮田アメリア・ルイサ
音読み漢字の特質 ---------- 2：65

山岡政紀
「場」の概念 ---------- 6・7：41
発話行為論とモダリティ
——疑似意向文をめぐって ---------- 8：16

山本秀樹
Remarks on Grammatical Categories in Typology ---------- 6・7：1
Adverbial Clauses of Time in Japanese Mae ni and -Nai uchi ni --- 8：29

楊　凱栄
「XガYヲZニスル」構文と「XガYヲZニサセル」構文との異同について
——Zが形容詞の場合 ---------- 5：17

吉村弓子
現代日本語における漢字の表意性 ---------- 1：2
林先生の思い出 ---------- 4：1
語表記意識の変異 ---------- 4：82

レー・バン・クー
「状況の連体節」の構文
——接続助詞の形成における「の」の役割 ---------- 5：58

ロンギ・レジナ・ソニア
ブラジルにおける日系社会の言語保持と自己同一性との関係 ---------- 1：48

原稿募集

『言語学論叢』第９号（１９９０年３月３１日発行予定　１９８９年度分）掲載分の原稿を募ります。

下記の投稿規定を確認の上，掲載を希望する方は，１９８９年１２月末日までに，書面で編集委員あてに，その旨，お知らせ下さい（お知らせいただけなかった場合は，掲載の対象から漏れることがあります）。

投稿規定

＜資格＞　会員に限る。

＜枚数＞　和文の場合：４００字詰原稿用紙（横書きに限る）３０枚以内。
欧文の場合：パイカ活字，ダブル・スペースで１５枚以内。
（その他，細かい体裁については，編集委員より掲載希望の方へお知らせします）。

＜要旨＞　本文が，和文の場合：欧文　１００～２００語
欧文の場合：和文　８００字以内

＜表記＞　手書き原稿の場合は，特殊な文字や記号は最小限にすること。

＜〆切＞　１９９０年３月１日（郵送の場合には，当日消印有効）厳守のこと。
締切日を過ぎたものは，次号掲載分とします。

＜採否＞　編集委員会で決定。

注１．　原稿は原則として返却しない。
　２．　論文掲載者には，本誌５部を贈呈する。

編集後記

編集委員の不手際により，発行が大幅に遅滞したことをお詫び致します。今号は掲載希望者が少数でしたが，会員の学術界進出も目ざましい今日，大学院生に限らず全国の会員諸氏の投稿によって次号以降の本誌を盛り上げていきたいと存じます。（Ｙ）